vinetur

チリのワイン輸出、9月までに2025年水準を8.8%下回る

9月の出荷量は0.3%、金額は2.5%増加し、8月の反発に続いて年初来の落ち込み幅が縮小

2026年11月10日（火）



2026年9月までのチリのワイン輸出は、直近の月次データで減少ペースが鈍化したものの、2025年の水準を下回った。チリ農業研究・政策局（Odepa）の統計によると、1月から9月までのワイン輸出量は4億7,560万リットル、輸出額は10億7,180万ドルで、2025年同期比でそれぞれ8.8%、6.4%減少した。この統計は海外市場向けのワイン輸出総額を対象とし、ピスコ、蒸留酒、果汁は含まない。

公表された総量と丸められた前年比を基にすると、輸出量は2025年1～9月に比べて約4,590万リットル少なく、輸出収入は約7,330万ドル減少した。それでも、前月時点と比べて減少幅は縮小しており、第3四半期後半に海外販売の落ち込みがいくらか和らいだことがうかがえる。

この鈍化は9月の月次データにも表れている。同月の出荷量は5,610万リットル、FOB輸出額は1億2,690万ドルだった。2025年9月と比べると、数量は0.3%、金額は2.5%増加した。前年比の改善幅は小さいものの、輸出額が数量を上回る底堅さを示した月が続いた。

一方、2026年8月との前月比では、9月の数値は減少した。輸出量は320万リットル（5.4%）減、金額は1,650万ドル（11.5%）減だった。これらの前月比は季節調整されておらず、金額は名目米ドルで示されている。そのため、インフレや為替変動、販売商品の構成変化の影響は切り分けられていない。

9月29日公表のOdepaの報告書によると、チリは2026年1〜8月に4億1,940万リットル、9億4,490万ドル相当のワインを輸出し、前年同期比で数量は9.9%、金額は7.4%減少していた。同報告書では、8月単月の輸出は5,930万リットル、1億4,340万ドル相当となり、2025年8月比で数量は18.4%、金額は15.9%増加したことも示された。8月までの累計減少率9.9%が9月までに8.8%へ縮小したことから、第3四半期末にかけて年間の落ち込み幅がさらに狭まったことが分かる。

数量の減少率が金額の減少率を上回ったことは、輸出構成の変化も示唆している。1〜9月の合計から算出すると、輸出単価は1リットル当たり約2.25ドルで、前年同期を約2.6%上回った。ただし、チリの輸出業者が一律に同じ幅で値上げしたことを意味するわけではない。高価格帯ワインの販売比率が上昇した場合や、輸出先が変わった場合、あるいは為替やコストの影響があった場合にも、見出しの数値には表れない形で平均単価が上昇することがある。

9月29日付のOdepa報告書で公表された最新の品目別データによると、8月まで、原産地呼称ワインがチリの輸出の柱であり続けた。2026年最初の8カ月の輸出量は2億3,860万リットル、金額は7億4,640万ドルで、2025年同期比で数量は5.4%、金額は5.7%減少した。バルクワインの輸出は1億4,890万リットル、1億3,010万ドル相当で、数量は12.8%、金額は4.7%減。スパークリングワインは同期間に数量が6.3%減の260万リットル、金額が8.8%減の950万ドルとなった。

8月までの内訳を見ると、輸出総額の減少が総量の減少より小幅だった理由がうかがえる。一般に単価が低いバルクワインは、8月までの数量減少率が原産地呼称ワインを大きく上回った。この傾向が9月も続いていれば、輸出総量が2025年の水準を下回る中でも、1リットル当たりの平均輸出額を下支えしたと考えられる。

輸出統計の背景には、チリのワイン産業を取り巻く国内の複合的な状況がある。9月29日付の同報告書でOdepaは、2026年のチリのワイン生産量が9億4,950万リットルとなり、前年から13.2%増えたと発表した。また、農業・畜産庁の報告として、2025年12月31日時点のワイン在庫は11億2,090万リットルで、2024年12月から13.3%減少したと伝えた。生産増と在庫減は輸出向け供給を支える可能性があるが、9月までの貿易データを見る限り、供給増はまだ輸出量の2025年水準への回復につながっていない。

業界メディアのVineturが11月9日月曜日に掲載した記事も、Odepaのデータを基に同じ傾向を指摘した。チリのワイン輸出の減少ペースは鈍化したものの、海外への出荷量は前年を下回り、輸出収入も前年より少ないという。こうした分析の基礎となる統計はOdepaが月次報告書で公表しており、8月のデータを含む9月29日付の発表と、9月の輸出結果を扱った11月2日付の報告書が含まれる。